

ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察

-スマホの登場によるケータイ機能利用の構造変化-

飽戸 弘 (東京大学名誉教授)
栗原 一浩 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
松本 健太郎 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
水野 一成 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
栗原 俊介 (NTTドコモ モバイル社会研究所)

1 . 目 的

1-1. 研究背景

・**先行研究**：(「ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察」2011年9月 日本行動計量学会第39回大会)
2003年と2010年のケータイの機能利用のアンケート結果を比較。2010年にはケータイの機能の利便性向上・多様化の結果、**ユーザはライフスタイルや嗜好に合った機能・サービスを取捨選択する傾向**を示唆。

・**本報告の位置づけ**：

先行研究に基づき、最新の動向を調査した結果の速報。

2003年

	クラスタ1 夢中	クラスタ2 未来機能肯定・ 新機能好き	クラスタ3 未来機能否定・ 加減志向	クラスタ4 人物像把握	クラスタ5 消極型
%	15.4%	23.0%	19.6%	16.2%	25.8%
N	77	115	98	81	129

2010年

	クラスタ1 夢中	クラスタ2 未来機能志向	クラスタ3 予約・ 購買志向	クラスタ4 人物像把握・ 夢中傾向無し	クラスタ5 新機能否定・ 消極型	クラスタ6 必需性否定・ 消極型
%	19.3%	13.3%	24.3%	15.1%	16.7%	11.2%
N	97	67	122	76	84	56

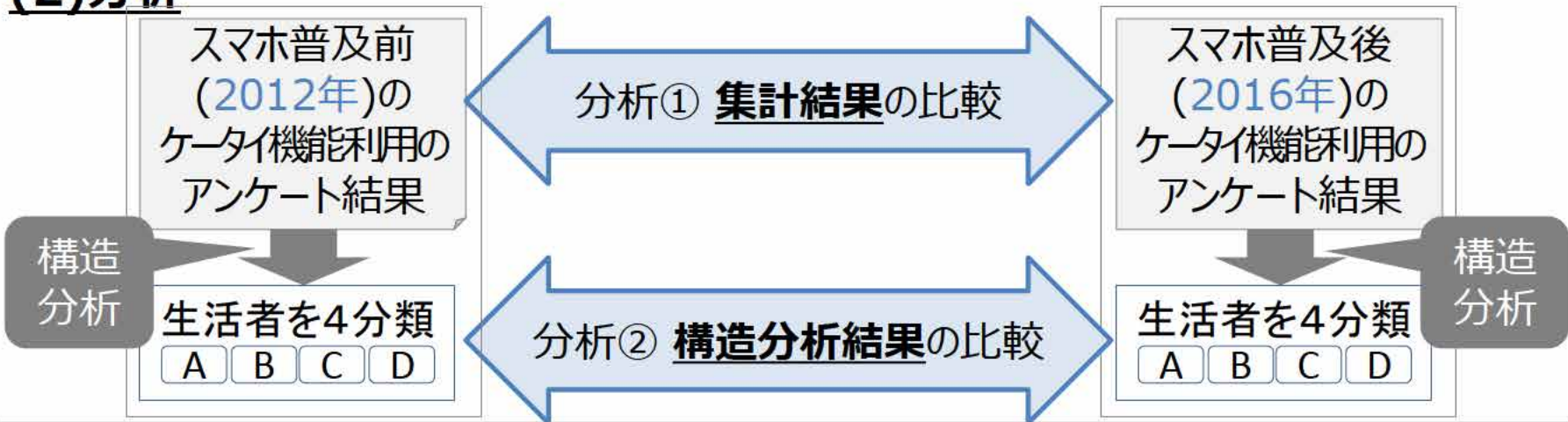
1-2. 仮説・要旨

・スマホの登場により、操作性が向上し、スマホやケータイで利用される機能や利用ユーザの社会分布（性年代・職業等）に大きな変化が生じていると考えられる。
 ⇒従来型のケータイの所有率が減少に転じ、スマホ所有率が2割であった2012年と、スマホ所有率が過半数を超えた2016年を比較しケータイの機能利用の構造変化を検証。

(1) リサーチクエスト

スマホの登場によって生活者の**ケータイ機能の利用状況**はどのように変わったか。
 (※ケータイ機能とは音声通話・メール以外の拡張機能)

(2) 分析



(3) 結論

- ① スマホの登場によって、ケータイ機能利用が「消極的」なグループは、約3割減少し、様々な年代の生活者のケータイ機能の利用が積極的になった。
- ② 一方、ケータイ機能の利用が消極的な生活者に占める**60歳以上の男女の比率はスマホの登場後に拡大した。**

2 . 調査概要

2012年と2016年に、下記の方法でケータイ機能利用に関する調査が行われた。(モバイル社会研究所では、2012年にケータイの機能利用に関する調査項目を見直し、現在まで毎年継続して調査を実施している。)

- 1) 調査実施時期 : 2012年1月、2016年1月
- 2) 調査対象 : 2012年調査は日本全国の15歳以上の男女。2016年調査は首都圏(1都6県)在住の15歳以上の男女。
- 3) 標本抽出法 : 性、年代(5歳刻み)、居住地別に人口分布に比例してサンプルを回収。
- 4) サンプルサイズ : 2012年調査は536、2016年調査は300。
- 5) 調査方法 : いずれも訪問留置調査による。

ケータイ機能利用についてのアンケート内容は以下。
 スマホ普及前(2012年)とスマホ普及後(2016年)では一部選択肢が異なっていたため、比較可能な下記の選択肢を抽出して分析を行った。

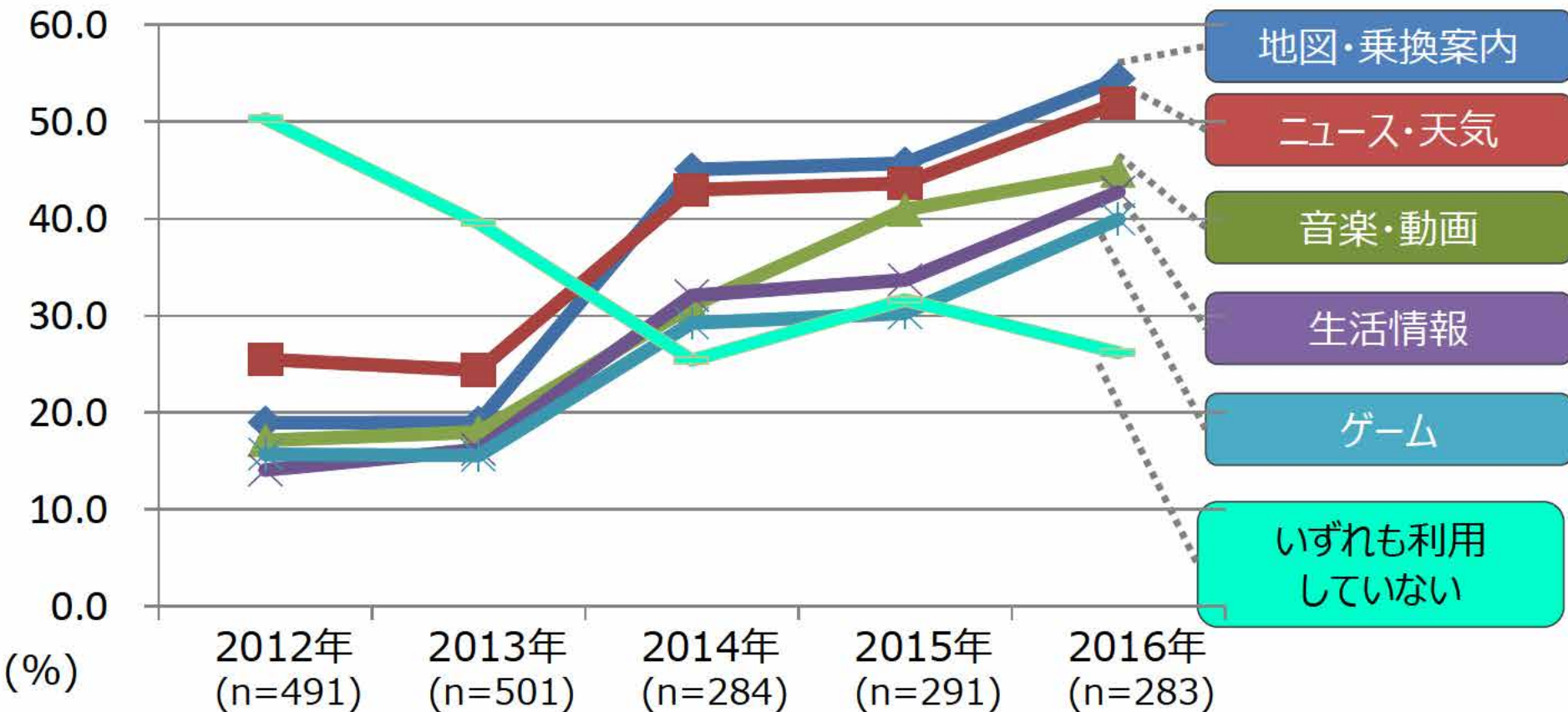
項番	質問文：スマホ・ケータイで以下の機能やコンテンツ・アプリケーションを月1回以上利用していますか。(複数回答)	2012年の回答者数 (n=491)	2016年の回答者数 (n=283)
1	音楽・動画エンターテインメント	17%	45%
2	ゲーム	16%	40%
3	電子書籍(マンガを含む)	4%	16%
4	ブログ	8%	37%
5	ミニブログ(Twitterなど)	7%	
6	SNS(Facebookなど)	6%	
7	ソーシャルメディアでの音声通話	-	23%
8	ニュース・天気	25%	52%
9	生活情報(グルメ・ショッピング等)	14%	43%
10	地図・乗換案内・ナビゲーション	19%	54%
11	ファイル保存サービス	3%	12%
12	写真閲覧・編集	11%	37%
13	辞書	13%	24%
14	スケジュール、手帳、メモ	18%	36%

3 . 分析結果

分析①

スマホ・ケータイでの機能・アプリの利用状況について、2012年から2016年を比較した結果、以下の傾向が見られた。

- ①『いずれの機能も利用していない』と答えた方が4年間で20ポイント程減少
- ②『地図・乗換案内』、『音楽・動画』、『生活情報』の増加が顕著



スマホ・ケータイで以下の機能やコンテンツ・アプリケーションの利用をしていますか。(〇はい/〇いいえ) スマホ・ケータイで月1回以上利用

ケータイ機能利用のアンケート結果について構造分析を実施。

⇒因子分析(主因子法、バリマックス回転)の結果、2012年と2016年でそれぞれ下記の4因子が抽出された。

○2012年のケータイ機能利用の因子

○2016年のケータイ機能利用の因子

	動画・ ゲーム	情報 収集 ・ナビ	手帳・ 辞書	情報 共有・ SNS
音楽・動画エンターテインメント	0.61	0.20	0.15	0.29
ゲーム	0.39	0.34	0.06	0.16
ニュース・天気	0.30	0.58	0.20	0.10
生活情報 (グルメ、ショッピング等)	0.41	0.41	0.22	0.10
地図・乗換案内など	0.03	0.53	0.34	0.32
電子書籍(マンガを含む)	0.09	0.32	0.06	0.09
スケジュール、手帳、メモ	0.09	0.22	0.63	0.24
辞書	0.17	0.16	0.62	0.12
ファイル保存サービス	0.13	0.07	0.15	0.60
写真閲覧・編集	0.36	0.10	0.34	0.39
ミニブログ(Twitterなど)	0.16	0.17	0.20	0.62
SNS(Facebookなど)	0.17	0.22	0.08	0.60
ブログ	0.31	0.27	0.27	0.37

	動画・ ゲーム	情報 収集・ ナビ	テキスト ・写真	SNS
音楽・動画エンターテインメント	0.76	0.30	0.33	0.20
ゲーム	0.37	0.29	0.21	0.27
ニュース・天気	0.19	0.82	0.14	0.24
生活情報 (グルメ、ショッピング等)	0.21	0.64	0.34	0.25
地図・乗換案内など	0.29	0.56	0.24	0.25
電子書籍(マンガを含む)	0.17	0.14	0.59	0.17
スケジュール、手帳、メモ	0.13	0.47	0.55	0.08
辞書	0.09	0.27	0.44	0.15
ファイル保存サービス	0.18	0.08	0.63	0.20
写真閲覧・編集	0.26	0.35	0.47	0.23
ソーシャルメディアでのメッセージ	0.25	0.34	0.21	0.65
ソーシャルメディアでの音声通話	0.12	0.19	0.28	0.72

ケータイ機能利用のアンケート結果について構造分析を実施。
 ⇒各因子の因子得点を用いて非階層クラスター分析(k-means法)を実施した結果、2012年と2016年に共通する4グループに分類された。

○2012年のケータイ機能利用のグループ

	消極派 (n=332) 68%	コンテンツ 利用派 (n=70) 14%	ツール 利用派 (n=65) 13%	積極派 (n=24) 5%
動画・ゲーム	-0.3	1.3	-0.1	0.7
情報収集・ナビ	-0.3	0.5	0.9	0.6
手帳・辞書	-0.2	-0.2	1.2	0.8
情報共有・SNS	-0.2	-0.1	-0.2	3.0

○2016年のケータイ機能利用のグループ

	消極派 (n=110) 39%	コンテンツ 利用派 (n=69) 24%	ツール 利用派 (n=51) 18%	積極派 (n=53) 19%
動画・ゲーム	-0.5	1.0	-0.8	0.6
情報収集・ナビ	-0.8	0.4	1.0	0.3
テキスト・写真	-0.3	-0.1	-0.4	1.0
SNS	-0.3	-0.5	0.2	1.0



グループA	グループB	グループC	グループD
消極派 (いずれの機能も利用が消極的)	コンテンツ利用派 (音楽・動画・ゲーム等のコンテンツを主に利用)	ツール利用派 (情報収集・ナビ等のツールを主に利用)	積極派 (いずれの機能も利用が積極的)

分析②

- ① スマホの登場によって、ケータイ機能利用が「消極的」なグループは、約3割減少し、様々な年代の生活者のケータイ機能の利用が積極的になった。
- ② 一方、ケータイ機能の利用が消極的な生活者に占める**60歳以上の男女の比率はスマホの登場後に拡大した。**(⇒シニアのICT利活用状況について、この後報告。)

2012年

	消極派 (n=332) 68%	コンテンツ利用派 (n=70) 14%	ツール利用派 (n=65) 13%	積極派 (n=24) 5%
性年代	-	10代男性、 30代女性	40代女性	10代女性、 20代男女
職業	-	-	-	会社員・学生
ケータイの種類	従来のケータイ	従来のケータイ	従来のケータイ	スマートフォン
SNS利用	存在自体を知らない	閲覧のみ	閲覧のみ	自ら発信

①

消極派に占める
60歳以上の割合
は**61.9%**

2016年

	消極派 (n=110) 39%	コンテンツ利用派 (n=69) 24%	ツール利用派 (n=51) 18%	積極派 (n=53) 19%
性年代	60歳以上男女	-	30代男性、 50代女性	-
職業	専業主婦・無職	会社員等	-	会社員・学生
ケータイの種類	従来のケータイ	スマートフォン	スマートフォン	スマートフォン
SNS利用	存在自体を知らない	自ら発信	閲覧のみ	自ら発信

②

4 . まとめ

1. 2012年と2016年に共通する4つのグループが析出された。

- (1) 消極派：いずれの機能も利用が消極的（68% 39%）
- (2) コンテンツ利用派：動画・ゲームを主に利用（14% 24%）
- (3) 積極派：いずれの機能も積極的に利用（5% 19%）
- (4) ツール利用派：手帳・辞書機能や情報収集等に利用（13% 18%）

2. 各グループの年齢構成において、下記の傾向を確認した。

- (1) ケータイ機能を利用する生活者の比率が拡大
- (2) 2012年の「積極派」は10代、20代が多かった。2016年の「積極派」は様々な年代の生活者が属する傾向
- (3) 2012年に比べて2016年においては「消極派」の中で60歳代以上の男女の比率が拡大

3. 結論（リサーチクエストへの解）

- (1) スマホの登場によって様々な年代の生活者のケータイ機能の利用が積極的になった
- (2) 一方、ケータイ機能の利用が消極的な生活者に占める60歳以上の男女の比率はスマホの登場後に拡大した

ご清聴ありがとうございました。